

令和6年度 第1回江別市総合戦略推進委員会 会議録（要点筆記）

日 時：令和6年8月1日（木）午後6時から午後7時55分まで

場 所：江別市民会館2階21号室

出席委員：福沢康弘委員長、龍田昌樹副委員長、保田真希委員、布施望委員、
佐々木尚弘委員、佐藤裕則委員、畠山真理委員、干野里佳委員、佐藤誠一委員、
小橋恵美委員、鈴木笑子委員
（計11名）

オブザーバー：北海道石狩振興局地域創生部 矢野敦子部長、
日本アイ・ビー・エム株式会社コンサルティング事業本部 佐藤潤マネージング・コンサルタント

欠席者：伊藤亮子委員

事務局：三上企画政策部長、伊藤企画政策部次長、中島デジタル政策室長、
天明屋デジタル政策担当参事、鈴木主査、馬場主査、但馬政策推進課参事、
北島主査、眞鍋主査

傍聴者：なし

会議概要

1 開会

2 委嘱状交付

3 挨拶

【企画政策部長挨拶】

4 委員紹介

委員名簿により紹介し、議事の最後に委員及びオブザーバーから、本日の感想をいただくことを確認。

5 江別市総合戦略推進委員会について

【事務局説明、質疑等なし】

6 委員長・副委員長選出

委員の互選により、委員長に北海道情報大学の福沢委員が、副委員長に江別商工会議所の龍田委員が選出される。

7 報告事項（1）第2期江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と進捗報告について

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

次第5の「江別市総合戦略推進委員会について」にもあったとおり、この委員会は、市の計画・戦略の方向性に対し、様々な立場からご意見をいただくという会議体である。

今日は、市と委員各位が共通認識を持つことを目的としているとのことであるので、この時点で意見が無ければ、会の最後にお話しいただきたい。

7 報告事項（２）江別市DX推進方針の概要と進捗報告について

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

この江別市総合戦略推進委員会と同様に、江別市役所内部において、「江別市まち・ひと・しごと創生推進本部会議」と「未来型政策庁内検討会議」を解散して、新たに「江別市総合戦略推進本部会議」を立ち上げたと説明があったが、その庁内会議の構成員について伺います。

○事務局

市長を本部長に、市長以外の特別職を副本部長とし、各部等の長を本部員としている。

7 報告事項（３）江別市の現状について、（４）江別市の将来人口推計について

【資料により事務局一括説明、質疑等なし】

8 今後のスケジュールについて

【資料により事務局説明】

○福沢委員長

本日は、現行の総合戦略とDX推進方針の概要及び進捗を報告いただいた。また、江別市の現状、将来人口推計などについての説明を受け、各委員にご認識をいただいたものとする。

次回からは、第三期となる総合戦略の章立て等を示した骨子の案の報告を受け、その方向性について協議を行うということである。

先ほど申し上げたとおり、この委員会は、それぞれの立場から市の計画・戦略の方向性に対してご意見をいただくという委員会であるため、委員各位の忌憚ない意見をいただければと思う。

現時点での予定では、概ね年内には新しい総合戦略の素案ができるということになっているので、委員各位のご協力を願いたい。

9 その他（各委員の感想）

○福沢委員長

冒頭、事務局から案内があったとおり、各委員とオブザーバーのお二人から本日のご感想をいただきたいが、よろしいか。

【各委員：了承】

○龍田副委員長（江別商工会議所）

私は、この委員会の前身の二つの会議体に参加してきた。

今回、国は「地方創生」の取組にDXを組み込んでいくという形としたが、この間の国

の地方創生の取組全体を見ると、あまり良い結果ではなかったかのように聞いている。

ただ、この江別市においては、先ほどの説明の中にも幾度となく出てきたが、江別市は人口減少を何とか食い止めている、非常に稀な自治体である。

江別市は人口減少対策の方法を知っている自治体だと思うが、ここにいる皆さんの知恵やお力を拝借しながら、様々な社会課題を解決していこう、という考えが必要なのだろうと思う。

昨日、出張先の東京都から帰ってきたが、東京都は若い世代を吸い寄せる、魅力のある街であることは間違いないと思う。

若い世代が、地元は「楽しいところだ」、「楽しく遊べるところだ」と思えるかは、地元にとれほど「生き生きしている大人」がいるにかかってくるのではないかなと思う。

私は、この委員会は、江別市という「まち」の人口減少対策の一翼を担うものになると考えているため、各委員と共に自覚を持って考えていきたいと思うため、今後もよろしくお願いしたい。

私は、経済界の代表という立場となるので、そのポイントで発言していきたいが、個人的な話も含めて、委員各位から様々なご意見を伺いたい。

○保田委員（北翔大学短期大学部）

私の専門分野は子育て支援で、現在、北海道内の子育て世帯の貧困調査を行っている。

特に、就学前の子育てをしている世帯について、転入された方や、定住している方でもサービスへのアクセスが困難な方など、支援が届きにくい方の状況などを調査している。

子育て支援に関して10数年の調査を継続してきている研究の立場から、少しでも江別市やこの地域の活性化に貢献できればと思う。

本日、参加した中で、私の関心を持ったところでお話したい。

まず、1点目として、先ほど転入・転出について説明があったが、やはり、若者の立場を考えると、地方に定住するということは、若者にはリスクがあることなのだろうと思う。

江別市での就職・定住に関わってくる要素は何かと考えたときに、就職しようとする保育園や幼稚園だけでなく、その地域の魅力を知っているかどうかことが重要になっているのではないかなと思う。

近年では、「ジモ×ガク」の取組と連携しながら、なるべく、学生たちに地域に触れ合う機会を設けるということを継続しており、本学だけではなく、市内の四つの大学全体で、また地域の皆様とも連携しながら、江別市の魅力を若者に伝えていくことが重要になってくるものと考えている。

次に、2点目として、今後の子育て支援としては、子育て中でも働きやすい場所の整備や企業の協力のほか、子どもたちが安心して楽しめる遊び場の充実など、複数の取組が重なり合うことが重要になるのではないかなと考える。

それにより、より一層の江別市の活性化に繋がるのではないだろうか。

よって、今後のキーワードは「子育て支援」と、もう1つ、「介護」が挙げられ、このような「家族」に関わる課題・問題に対し、各種サービスにどれだけアクセスしやすくてできるかが重要になってくると考える。

○布施委員（道央農業協同組合）

私も、この委員会の前身の二つの会議体に参加してきた。

本委員会における私の役目を考えると、農業という一次産業の部分になるため、農業に関する話をさせていただく。

江別市は、農業の形態も非常に多く、1経営体あたりの面積も大きい地域だが、今、問題となっているのが、高齢化に伴う「担い手不足」と「事業承継」である。

この耕地面積を守っていくことを考えると、事業承継に加えて、本日の説明の中でも何度か触れられていたが、スマート農業は力を入れなければならない分野であるとする。

江別市近郊は、農業以外にも魅力的なものが多くある地域であるため、我々も農業分野と共に何ができるかを常に考えており、先ほどから各委員がお話しされているように、農協としても様々な部分で貢献していきたいと考えている。

○佐々木委員（江別金融協会）

まず、私が江別市について感じていることとしては、JRの駅が市内に五つもあり、高速道路のインターチェンジが二つあるうえ、今後、国道337号が全線開通すると、苫小牧港や新千歳空港と石狩湾新港の中間点に位置することになり、さらに国道12号が交差することで空知や道北への中継点にあたるなど、非常に恵まれた立地にあるということである。

金融機関の立場から申し上げますと、今、事業者の皆さんは、人手不足の状況に非常に困っており、「人さえいれば、もっと仕事ができるのに。」という声を日々聞くところである。

我々、金融機関としても、例えば、他の地域から主に中途採用などによって人材を紹介することや、首都圏の専門的なスキルを持ったプロ人材を北海道にお連れしたりすること、北海道への移住希望者の紹介等に力を入れることのほか、企業の事業承継対策について力を入れていかなければならないと考えている。

事業の承継では、次を担われる方がいなくなることで、事業者が廃業することによって経済が縮小してしまうことになるため、金融機関としても、事業承継に向けた相談やマッチングなどを進めたいと考えている。

金融の観点から、江別市の発展に貢献していきたいと考えているので、よろしく願いしたい。

○佐藤裕則委員（北海道新聞社）

恐らく、私は、委員の中で、江別市に住んでもおらず、江別市で働いてもない唯一の者ではないかと思う。

私のような、ある意味での「よそ者」をこのような委員会に取り入れていただくという、江別市の度量の深さを感じると同時に、外部からの視点も大切なのだらうと考える。

今、江別市の社会増や自然減という説明があったが、江別市生まれではないが江別市で育った方が多いということや、大学生が多いという事実からも、学校を卒業しても江別市に住み続ける人が増えるということより、江別市で学生時代を過ごす間に、「江別っていい街だな」、「この先、札幌市で働くけど、また江別市に戻ってきたい」と思えるような

街になっていくことが重要なのだらうと感じたところ。江別市が、そのような街になるためのご協力ができればと思っている。

私が勤める会社に、車椅子を使っているパラリンピアンがおり、北京オリンピック・パラリンピックの取材時の話を聞くと、北京は日本ほど路面が綺麗に整備されているわけでもなく、駅などの公共施設のエレベーターが全部完備されているわけでもないが、周囲の方が、「大丈夫か」、「何か荷物を持つか」と関わってきてくれる街だったとのことであった。

江別市も、そのように、色々な形で、自然と人の気持ちが伝わっていくことができるような街になれば、Uターン数の増加や、江別市で子育てをしようとする方が増えると思うので、思い・気持ちという視点も加えていけたら良いのではないかと考えている。

○畠山委員（えべつ観光協会）

私は、総合戦略やDXに関する会議に参加することは初めてだが、先ほど市から説明いただいた内容の全てが、自分事であると感じたところ。

正に、私も江別市で育ち、大学を卒業して転出し、そして子育てをきっかけに転入して江別市に戻ってきた経緯があり、

また、えべつ観光協会に所属し、江別市観光振興計画の策定に携わらせていただいたが、江別市の観光のターゲットは誰なのかと考えると、市内に住む市民の方に楽しんでいただいて、それを見て、近郊の方に楽しみに来ていただくという視点も重要になってくるのではないかと考えている。

市民の方に楽しんでいただくということは、子ども達にも楽しんでもらうことが重要であり、市内の観光の場が、子ども達に色々な経験を積んでもらう場になっていけば良いのではないかと考えている。

私自身も、小学生と未就学の子がいるが、自分の子どもを連れてイベント等の仕事に行くと、周りの方が子どもに構ってくれることが多く、非常に助かっている。

子ども達をいろいろなところに連れていくことで、子どもたちの世界が広がることに加えて、実際に自分の子どもが様々な仕事に触れることで「こういう仕事がしたい」と言うようになるなど、私自身の仕事を通して、子どもたちにも経験を提供できることが、素晴らしいことだと感じている。

私は親子3世代で江別市に住んでいるが、そのように複数世代が暮らせる街になると、結果として子育てがしやすい街になり、「子どもが主役のまち」になるのではないかと考える。

今回、デジタル技術の活用、デジタル化という点でも、情報が様々ありすぎるだけに、どの情報を自らに必要な情報として拾えば良いかわからないという問題を日々感じている。「こういう困りごとの時はこう。」という答えを、デジタルの力で解決してくれると助かると感じているので、自分自身の経験を含め、色々な目線でこの委員会に参加したい。

○千野委員（えべつ協働ねっとわーく）

私は、この委員会の前身の会議体の一つである、江別市未来型政策検討委員会に市民委員として参加していたが、本委員会には、NPO法人えべつ協働ねっとわーくから参加さ

せていただくことになったので、よろしくお願いしたい。

私どもは、野幌駅の南口にある「市民活動センター・あい」を拠点として、まちづくりや市民活動団体の支援、「ジモ×ガク」の運営などの地域活動全般の支援のほか、レンタサイクルの貸出や観光案内なども行っている。

そして、市民交流施設「ぷらっと」の中には、江別国際センターや、江別市の証明交付窓口も入居しているため、様々な立場の住民の方々が交流し、サロンにお越しいただいて、新聞に載った記事や、日々のニュースのこと、配架している市の様々な広報についての問合せ、エスコンフィールドに行けるバス停の位置など、非常に身近な質問から、福祉的な対応が必要な方への声掛けなど、住民の声を間近に聞ける立場にある。

日々市民が集まる、まちづくり拠点として、今、江別市に住んでいる方々が、落胆せず、江別市に愛着を持って長く住んでいただけるための意見などを、委員会では発言したいと考えているので、よろしくお願いしたい。

○佐藤誠一委員（江別市自治会連絡協議会）

私も、この委員会の前身の会議体の一つである、江別市未来型政策検討委員会に自治会の立場で参加しており、引き続きよろしくお願いしたい。

地方創生やデジタル化という国の方針の下で、江別市でも様々な取組が行われてきたが、その内容が市民の皆さんに、しっかりと伝わるかどうかは、自治会を含めた市民のネットワークが、いかに作られているかが重要であると思う。

前身の未来型政策検討委員会では、自治会のＤＸなどに携わってきたが、物流で言うラストワンマイルに当たる自治会、市民のＩＣＴ、ＤＸ化が進むことで、より大きな効果が得られるのではないだろうか。

私は６６歳であり、この委員会では恐らく年上になるのではないと思うが、６５歳以上の高齢者という線引きで見ると、今までの１０年とこれからの１０年では、同じ高齢者でも、ハイテクな高齢者となり、能力と時間がある元気な高齢の方々が、地域を支えていくことも考えられると思う。

自治会のＤＸ化は、最も市民に近いところであるので、様々な意味で、良い変化が起きると思う。

私が所属する自治会は、市内の１６３自治会あるなかで唯一、会費、回覧版などの自治会事務をデジタル化しており、全ての自治会員がデジタル化しているわけではないが、９割以上はデジタルで連絡している状況である。

自治会のデジタル化は、一朝一夕にできたわけではなく、１０年かけて人材を集めて、５年かけてシステム化したところだが、これまでの１０年間と、これからの１０年間を考えると、江別市内の他の自治会でも、おそらく自治会のＩＣＴ化は可能だと思われるので、この取組が全市で進み、市のＤＸ化と合わせて住み良い街になっていくことを期待したい。

○小橋委員（市民委員）

私は、中学生と小学生の子２人を持つ母親であり、両親共働き、私も正社員としてフルタイムで働いているところ。

実家は江別市で、大学は札幌市、卒業後も札幌市で就職し、その後、江別市に縁があり、

転職を機に江別市に転入してきたところであるので、先ほどの市の説明については、私も、自分事のように捉えることができたと考えている。

個人としては、自治会活動の中でも、いろいろな方と関わり合う中で、江別市の大変なところだったり、良いところだったり、魅力的なところも転入してから学んでいるところ。

江別市は、とても魅力的なまちだと思っており、特色や人に自慢できるところもたくさんあると考えていたため、札幌市で就職した後も、江別市のために何かできることがないかと思い、江別市に転職で戻ってきたところだが、「江別市っていいよね」と人に話しても、江別市の何が良いのかが、なかなか伝わりづらいついて感じている。

そのような中で、市の人口減少対策やDX化に関するこの委員会が新たに設置されると知り、何か協力できないかと知人から相談を受け、公募委員に応募したところ。

DX化などは、ご高齢者の方にとっては、少し抵抗感があるということは、自治会の中でも話をお聞きするところだが、それでも、若い世代に託していきたいという思いも聞いているところなので、様々な世代に配慮しながらも、江別市がアピールできて、人が集い、賑わう街になるように、少しでもお力になればと考えている。

○鈴木委員

私は、これまで江別市の市民委員は、市立病院あり方検討委員や景観委員会、子どもの読書推進委員などを務めさせていただいたが、このような江別市の市政に関わる委員会に関しては初めてであり、勉強させていただきながら参加したく、委員各位にはよろしくお願いしたい。

普段は、江別市の最も札幌市寄りにあるクリニックで看護師をしている。

江別市で生まれて、江別市で育ち、最後まで江別市で暮らしていける、そんなまちづくりがこの江別市でできていけばいいと思う。

本日の委員会で、江別市について様々な勉強をさせていただいたが、これほど魅力的で、全国でも年少人口の転入超過数が全国で20以内になるほど、子育て世代が選ぶ街であるにも関わらず合計特殊出生率が1.15と伸び悩んでいるというのは、今、江別市で出産できる場所が江別市立病院しかないということも一因なのだろうかと思ったところ。

また、近隣自治体に比べ、子どもや子育て中の方への経済的負担軽減の取組が少し遅れたのかと見受けられたことがあり、今では非常に取り組んでいただいているため、江別市で産んで育てようとする方が増えるよう、起爆剤として発展してほしいと期待しているところ。

他には、ココルク江別の取組や江別市の共生のまちづくりに関する精神が、本当に素晴らしいと感じている。多世代に関して、もう子どもからご高齢の方まで、様々な年代や境遇の方が交流できる場所で、江別市にもこのような施設・拠点ができたのかと、感動を覚えている。

これから、第3期となる総合戦略の骨子案を、皆様と一緒に協議させていただいていくこととなるため、よろしくお願いしたい。

○矢野氏（オブザーバー）

北海道石狩振興局地域創生部からオブザーバーとして参加している。挨拶を兼ねて、北

海道版の総合戦略の内容を少し紹介したい。

北海道総合計画が本年7月11日に策定されたが、現在、社会情勢が大きく変化し、人口減少や少子化が進む中で、北海道のポテンシャルを生かし、国内外から新たに住民を取り込み、持続的な発展を目指すために、新たな総合計画を策定し、今後10年間にわたる行動指針としたところである。

一方で、北海道の総合戦略については、総合計画の推進の中の重点戦略の一つであり、人口減少に対応する新たな総合戦略を、今年度末までの完成を目指し策定中である。

今後は市町村や民間団体などからも意見を聴く機会を設ける予定であり、その際には協力をよろしくお願いしたい。

○佐藤氏（オブザーバー）

私は、日本アイ・ビー・エム株式会社に所属しており、今回はデジタルの専門家として、昨年度から江別市の業務のDX化の推進という事業を手掛けてきた経験も生かしつつ、オブザーバーとして参加させていただく。

私も、以前、役所に勤めていたことがあり、パソコン等の環境が整っていない場合には、どんなに熱意があっても事業が進まないという経験をしたことがある。

江別市ではパソコンの持ち運びが可能なのか、クラウド上で書類の取扱いが可能なのか、職員全員が同じ情報を見て議論できる環境があるのかといった、インフラ整備の必要性を感じている。

次に、市民サービスとしてのDXであるが、デジタル化が進むと、必然的に情報が増えてくるため、何を選べばよいのか混乱するということが全国的な傾向としてある。具体的には、公式LINEで高齢者の方に毎日たくさんの情報が送られてきてしまい、情報が多すぎると感じられてしまうことで、LINEを切ってしまうという事例が増えてきた。

このように、デジタル化のもたらす便利さと、それに伴って引き起こされる問題も同時に考えていかなければならない。

また、江別市で人口が漸増している事実についても、なぜ江別市が選ばれるのか、ほかの自治体と何が違うのかその理由を探究していただき、私としても指標の変化や影響などの観点から総合戦略について考えていければと考えている。

○福沢委員長（北海道情報大学）

委員各位、貴重なご意見をいただき感謝する。

事務局においては、骨子案の作成などに当たって、各委員からあった発言も参考にしていただければと思う。

私から、最後に一言申し上げる。

丁度本日、全国知事会が開催されており、地方の人口減少や少子化対策など、様々な問題意識を持って動いているということであるので、江別市でもこの委員会の役割は非常に大きいと感じている。

私は、この委員会の前身の会議体の一つである、江別市まち・ひと・しごと創世有識者会議にも参加しており、その中でも申し上げたが、今、江別市では外国籍の方が非常に増えているところである。

私が勤める大学にも、外国籍の方が増えているが、最近の特徴としては、留学生ではなく、家族ごと江別市に移住してきている方が増えていると感じている。

具体の国籍では、パキスタンの方が増えており、江別市の高校を卒業して、本学に入学するパキスタン人の学生もいるところ。

日本全体の問題でもあるが、江別市でも先ほど、見方によっては悲観的に感じられる将来人口推計の説明があったが、それだけ人口が減少するのであれば、国としてもどこかの時点で外国籍の人材を受け入れなければならないのだろうと考える。

国全体の政策としても、話題に上がってくる可能性はあると思うので、そうなったときに、江別市でも外国からの方々を受け入れられる許容性というか、迎え入れられるための準備をしておくことを考える必要があるのではないかと感想として持ったところ。

今後、この委員会の中で、様々な方向性を検討していければよいと考えるので、各委員のご協力を願いたい。

9 その他（会議のデジタル化について）

福沢委員長から、次回以降の委員会のデジタル化（ペーパーレス化）についての提案があり、事務局から各委員に対して委員会に持参が可能なパソコンやタブレット等の電子媒体を保有しているか、また、保有していない場合に市のノートパソコンなどの貸与による使用が可能かを調査することが確認された。

10 閉会